

公衆・公園トイレに関するアンケート調査

2026年5月19日

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

Labo.
日本トイレ研究所

調査概要

- 実施主体** : 特定非営利活動法人日本トイレ研究所
- 調査方法** : アンケート用紙を郵送し、Googleフォーム、FAXまたはメールで回答
- 調査目的** : 地方公共団体における公衆・公園トイレに関する現状と課題の把握
- 調査期間** : 2026年2月20日(火)～3月20日(金)
- 調査対象** : 全国の都道府県及び市区町村の公衆トイレ・公園トイレ担当部署
- 回答数** : 653サンプル

※本調査では、小数第2位を四捨五入しています。そのため、数字の合計が100%とならない場合があります。

本件に関するお問い合わせ

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

E-mail laboseminar@toilet.or.jp TEL 03-6809-1308

本資料を転載・引用される際は上記までご連絡の上、クレジット表記をお願いいたします。

主な調査結果

本調査において、明らかになった主な課題を以下に示す。

● 老朽化と財源不足、利用マナーの課題が重なり、維持管理の持続性が問われる

公衆・公園トイレの維持管理の課題について、最も多いのは「老朽化している」80.7%、次に「利用マナーがよくない」58.5%、「修繕費用が不足している」39.4%である。

● ニーズ把握が不十分

公園・公衆トイレの設置数は、利用ニーズに対して「適正である」54.8%、「わからない」34.1%である。バリアフリートイレの設置数は、利用ニーズに対して「適正である」38.6%、「不足している」22.9%、「わからない」37.7%である。

● 防犯対策は6割が未実施、安心して利用できる環境整備が課題

公衆・公園トイレ全体について防犯対策を「実施している」40.4%、「実施していない」59.6%である。実施している場合に最も多いのは「防犯カメラの設置」49.2%、次いで「定期巡回・点検」46.2%である。

● 公衆トイレの配置基準・方針は9割がなし、計画的な整備・更新が必要

公衆トイレの配置に関する基準・方針等が「ある」10.5%、「ない」89.5%である。公衆トイレの数を今後「減らしたい」は21.6%、「現状維持」は74.9%、「増やしたい」3.4%である。

● 災害時の維持管理の担い手は「決めていない」が約半数、災害時の対応に不安が残る

災害時、公衆・公園トイレの維持管理を誰が行うかは「決めていない」47.7%、「決めていない」47.7%、「わからない」15.5%である。担い手として最も多いのは「行政担当者」67.1%、次いで「維持管理業者」29.1%である。

● 民間活用への期待と不安が混在、役割分担等のルール整備が課題

公園・公衆トイレの一部をコンビニ等のトイレが担うことについて、「期待している」は41.9%、「期待していない」は21.0%、「わからない」は37.1%である。

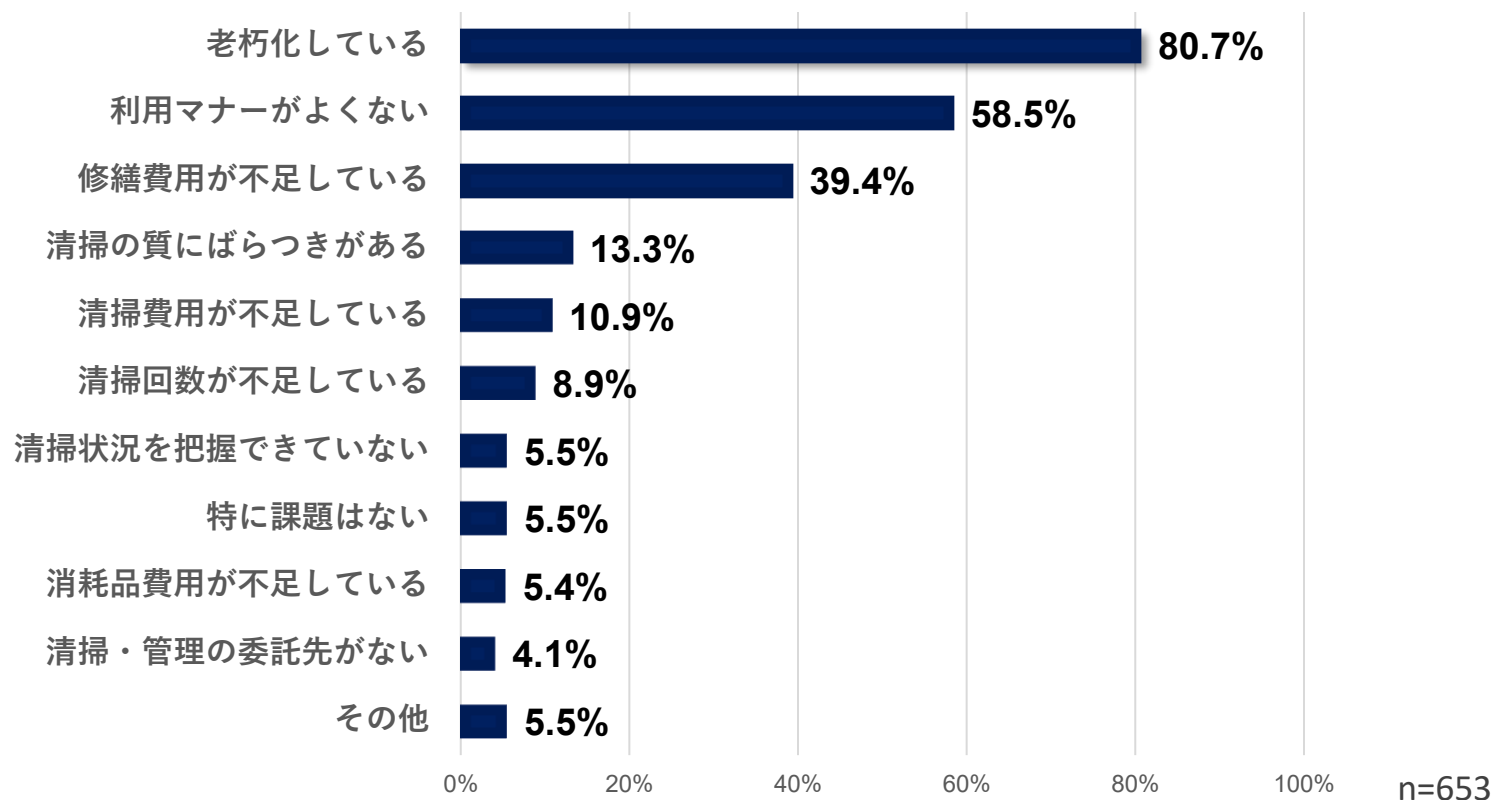
● 重視する課題は、老朽化・予算確保が上位

公衆・公園トイレの課題として重視するものは「建築・設備等の老朽化」68.6%、「維持管理の予算確保」67.6%が多く、「利用マナーの向上」41.3%、「清掃体制の確保」30.4%が続いた。

公衆・公園トイレの維持管理に関する課題

Q1. 公衆・公園トイレの維持管理について課題だと感じている点を教えてください。（MA）

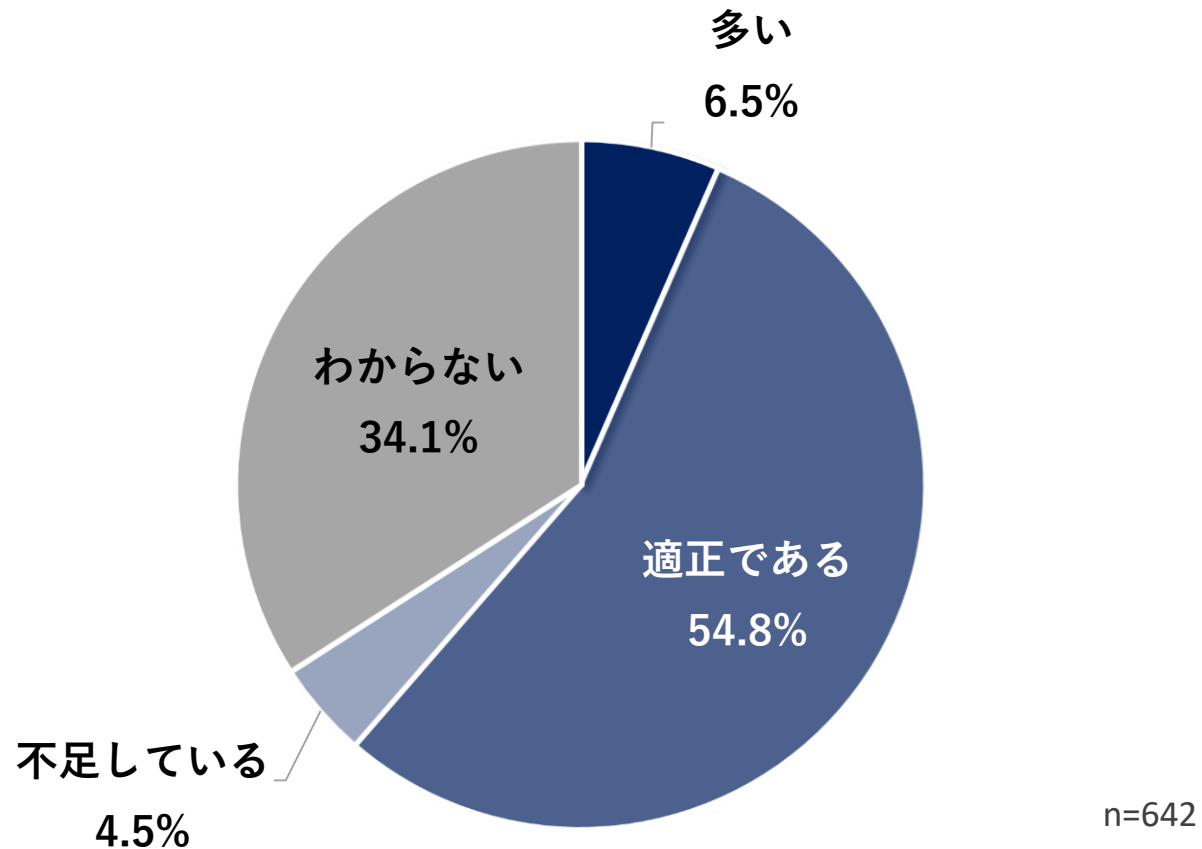
・最も多いのは「老朽化している」80.7%、次に「利用マナーが良くない」58.5%、「修繕費用が不足している」39.4%である



公衆トイレの設置数

Q2. 公衆トイレの設置数は、利用ニーズに対して適正ですか？（SA）

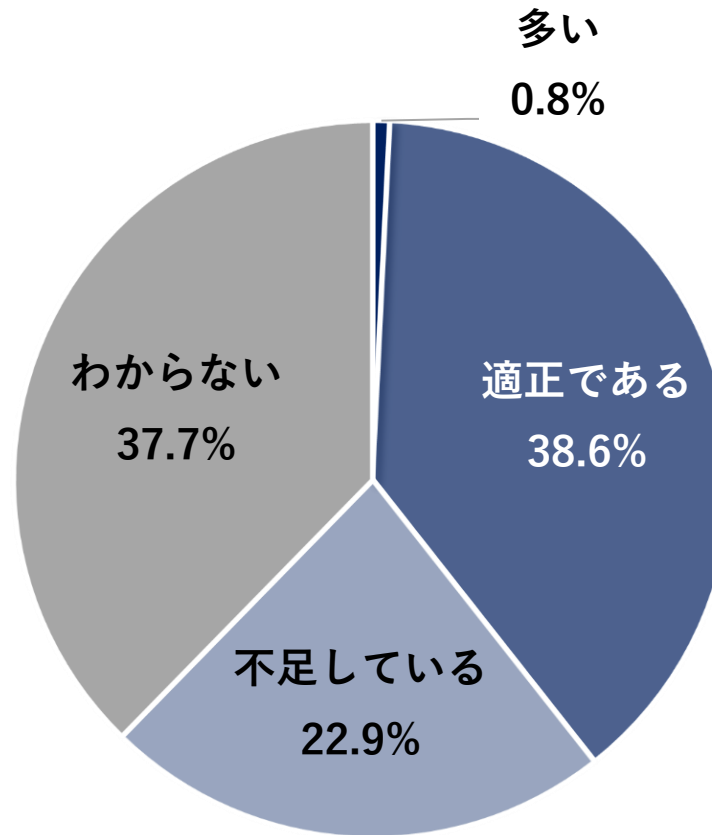
- ・「多い」は6.5%、「適正である」は54.8%、「わからない」は34.1%、「不足している」は4.5%である



バリアフリースイレの設置数

Q3. バリアフリースイレの設置数は、利用ニーズに対して適正ですか？（SA）

・「適正である」は38.6%、「不足している」は22.9%、「わからない」は37.7%である

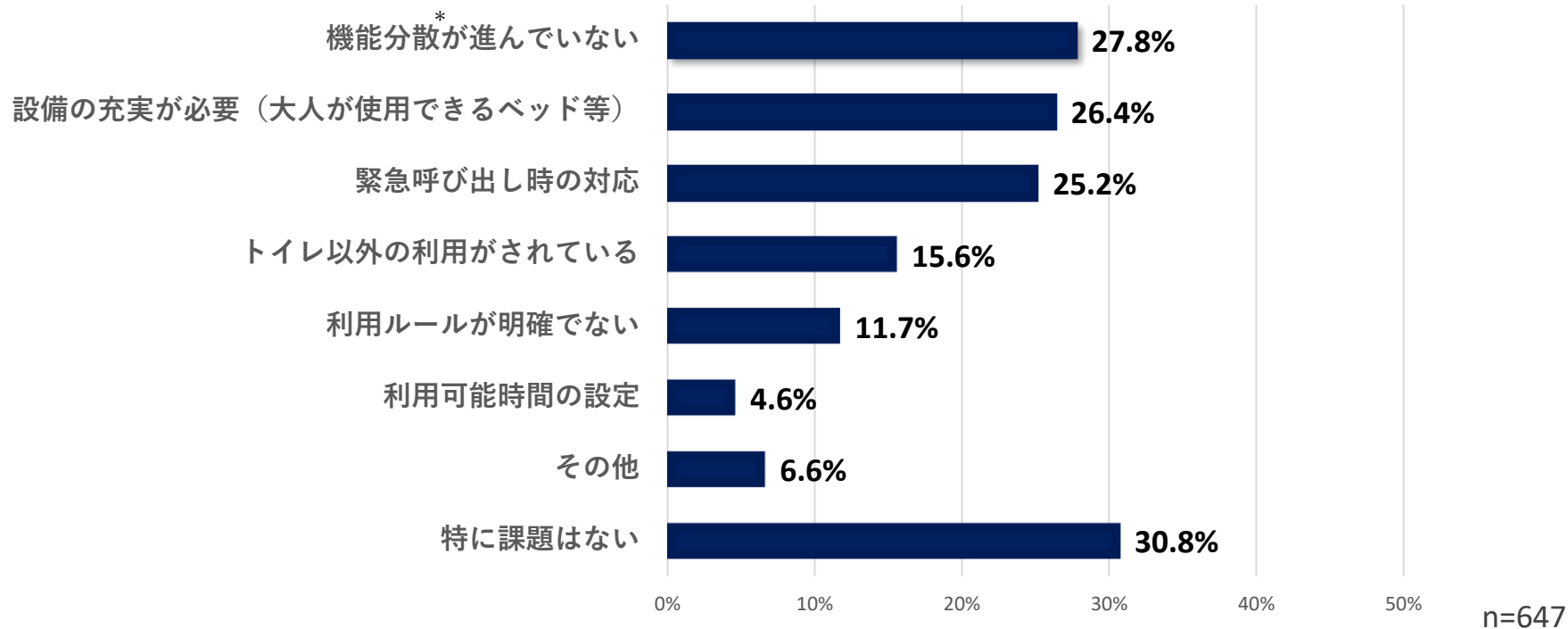


n=650

バリアフリースイールの課題

Q4. バリアフリースイールに関して課題だと感じている点を教えてください。（該当するものすべて）（MA）

- ・課題として多いのは「機能分散が進んでいない」27.8%、「設備の充実が必要」26.4%、「緊急呼び出し時の対応」25.2%などだが、「特に課題はない」も30.8%あった。

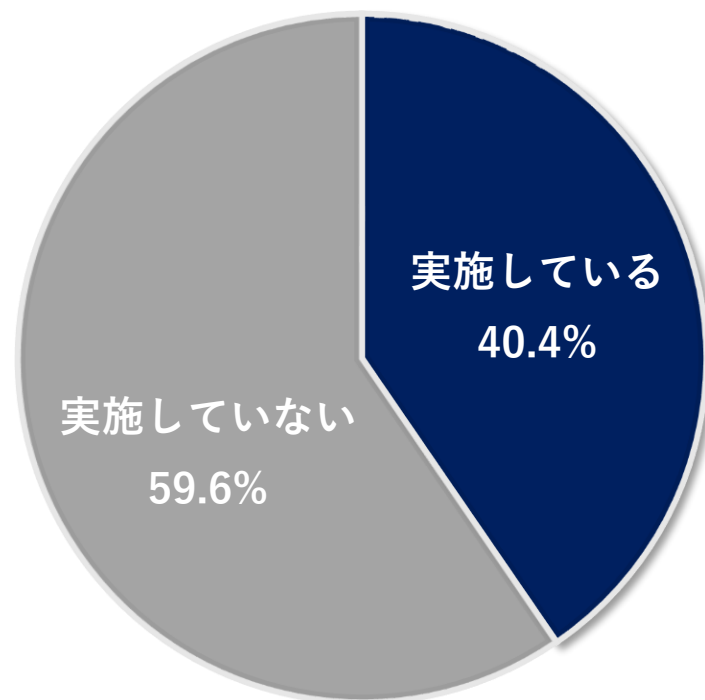


*多機能トイレ（バリアフリースイール）に付加された設備や機能を、一般便房に分散配置することにより、多機能トイレの利用集中を解消しようとする取組。具体的には、乳幼児用設備やオストメイト用設備の機能分散化が推進されている。（参考：国土交通省資料）

公衆・公園トイレの防犯対策

Q5. 公衆・公園トイレ全体についてお聞きします。防犯対策を実施していますか？（SA）

・防犯対策を「実施している」は40.4%、「実施していない」は59.6%である

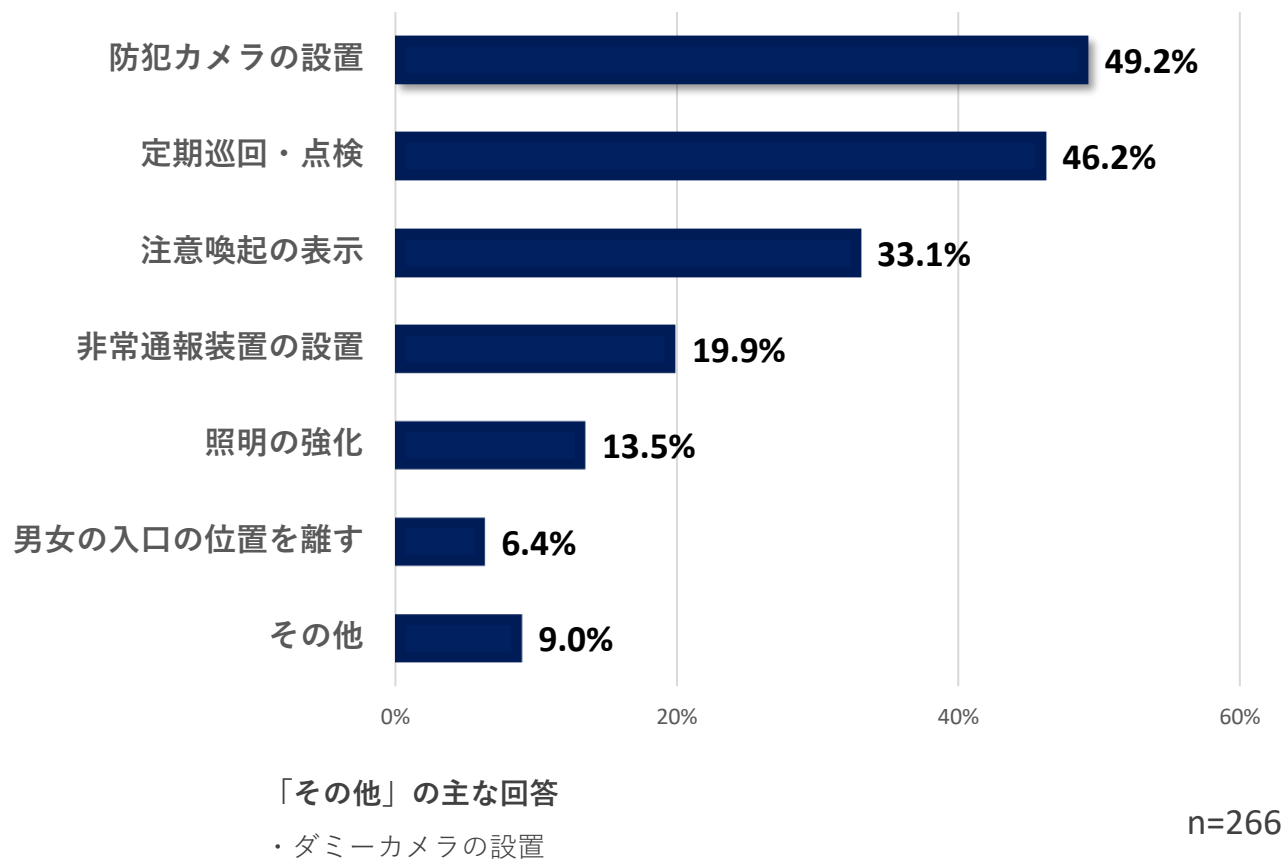


n=653

公衆・公園トイレの防犯対策

Q6. Q5で「実施している」と答えた方にお聞きします。どんなことを実施していますか？（該当するものすべて）（MA）

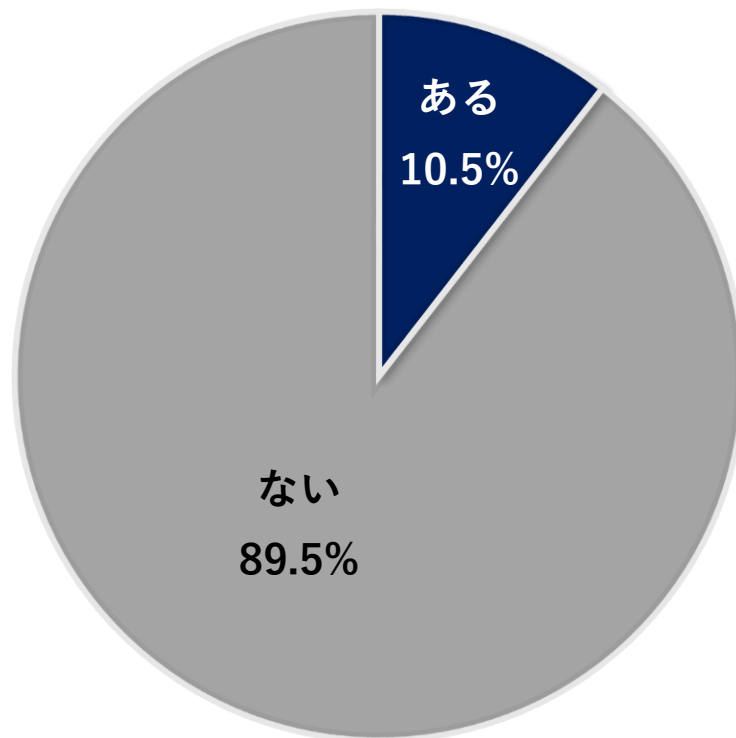
・防犯対策として最も多いのは「防犯カメラの設置」49.2%、次いで「定期巡回・点検」46.2%である。



公衆トイレの配置基準・方針

Q7. 公衆トイレの配置について、基準・方針等がありますか？（SA）

・基準・方針等が「ある」10.5%、「ない」89.5%である

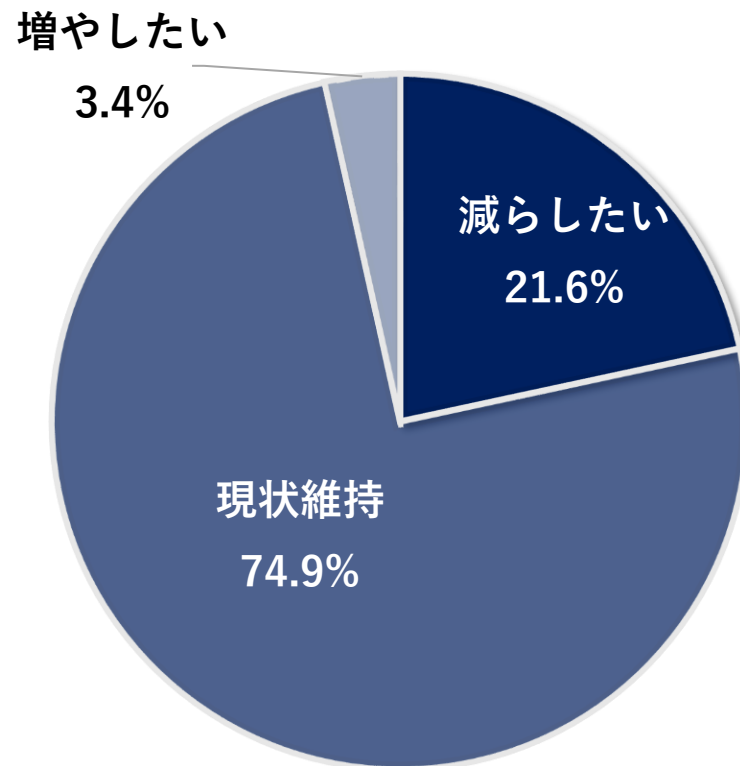


n=637

公衆トイレの数

Q8. 公衆トイレの数を今後どのようにしたいと考えていますか？ (SA)

・「減らしたい」は21.6%、「現状維持」は74.9%、「増やしたい」は3.4%である



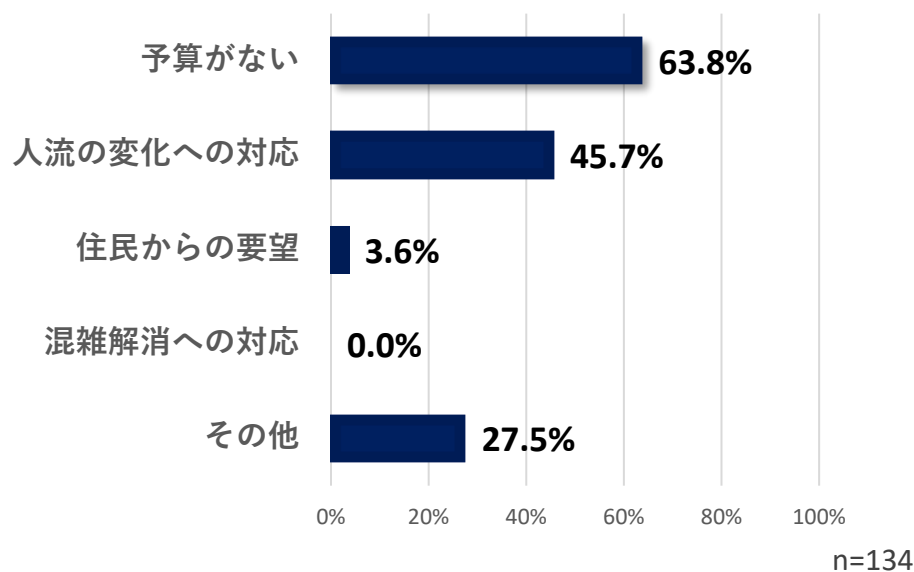
n=638

公衆トイレの数を増・減したい理由

Q9. Q8で「減らしたい」または「増やしたい」と回答した方にお聞きします。そのように回答した理由を教えてください。（該当するものすべて）（MA）

- ・「減らしたい」理由として最も多いのは「予算がない」63.8%、「増やしたい」理由として最も多いのは「住民からの要望」63.6%である

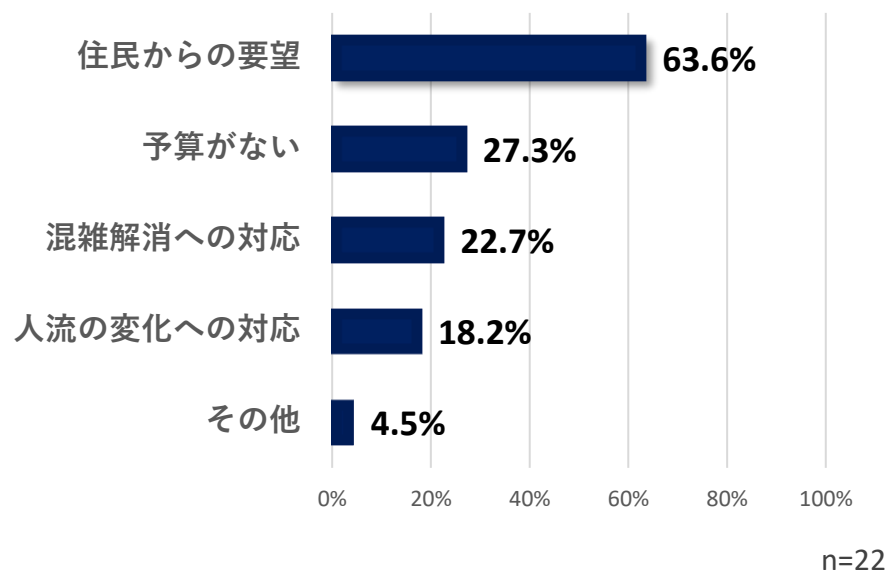
「減らしたい」と回答した理由



「その他」の主な回答

- ・利用者の減少
- ・維持管理コストの上昇
- ・老朽化
- ・維持管理、清掃等の担い手不足
- ・配置計画等の見直し
- ・利用マナー 等

「増やしたい」と回答した理由



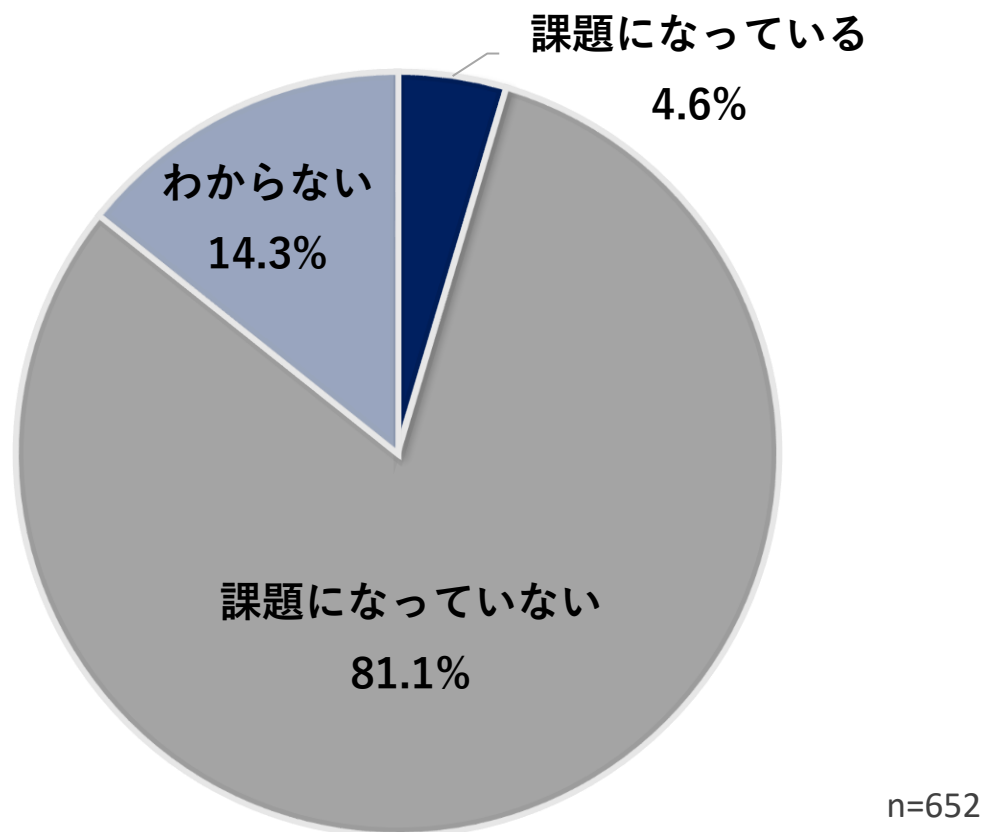
「その他」の主な回答

- ・設置目安となる範囲内に設置されていないエリアがある

女性用トイレの行列・待ち時間

Q10. 貴自治体では公衆・公園トイレにおいて、女性用トイレの行列・待ち時間は課題になっていますか？（SA）

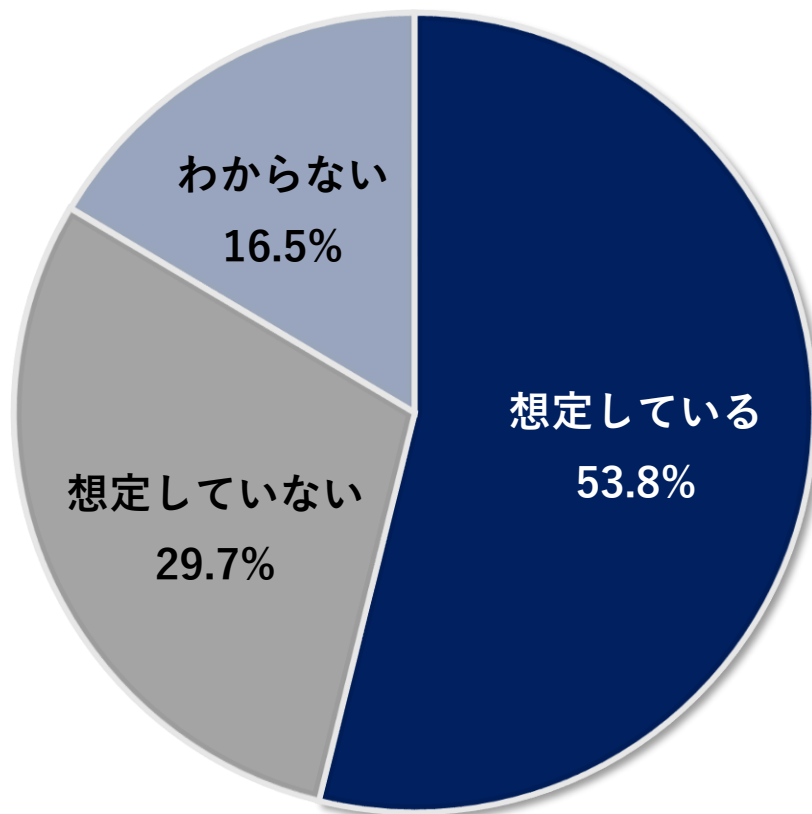
・「課題になっている」は4.6%、「課題になっていない」は81.1%、「わからない」は14.3%である



災害時の利用想定

Q11. 災害時、公衆・公園トイレが利用されることを想定していますか？（SA）

- ・「想定している」が53.8%、「想定していない」が29.7%、「わからない」が16.5%である

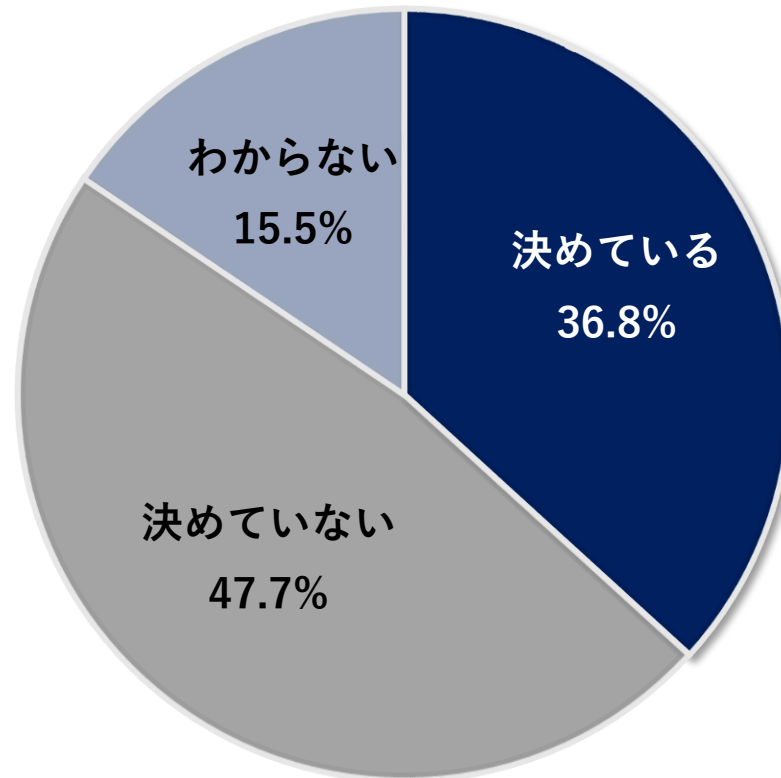


n=650

災害時の維持管理

Q12. 災害時、公衆・公園トイレの維持管理について、誰が行うか決めていますか？（SA）

・「決めている」が36.8%、「決めていない」が47.7%、「わからない」が15.5%である

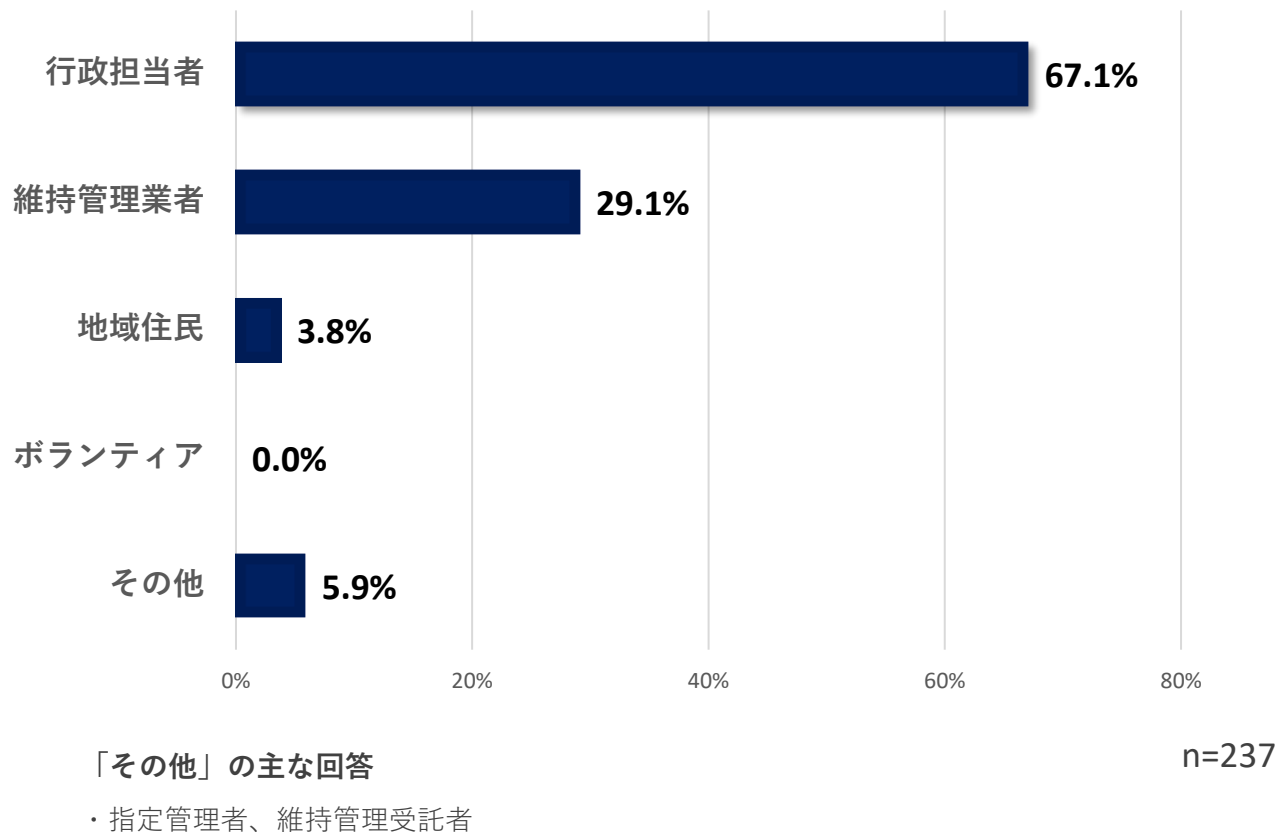


n=650

災害時の維持管理の担い手

Q13. Q12で「決めている」と答えた方にお聞きします。それは誰ですか？（SA）

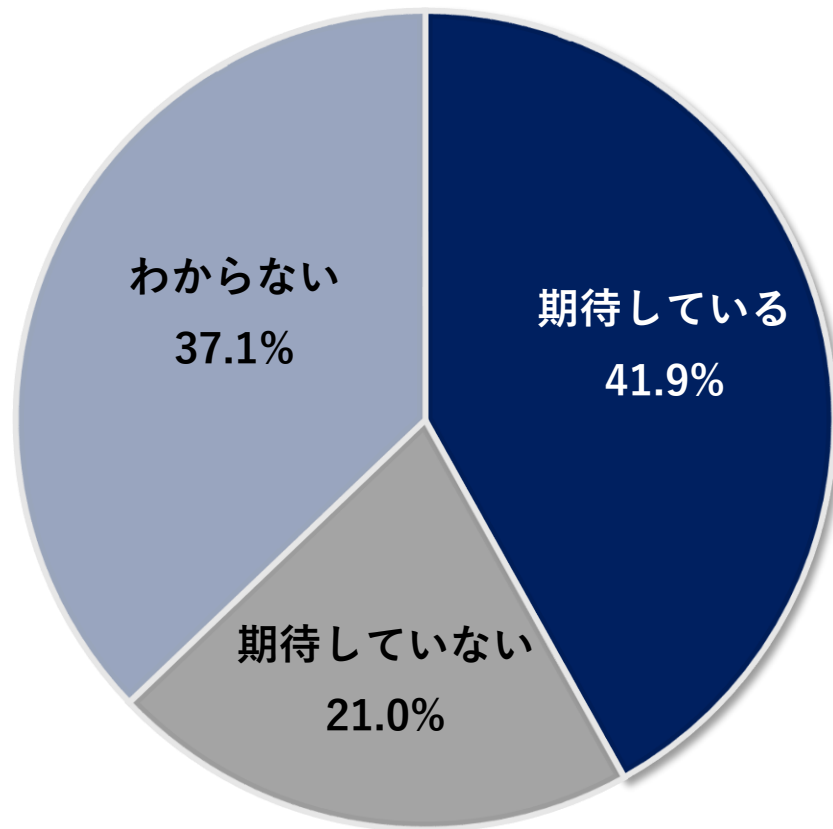
・最も多いのは「行政担当者」67.1%、次いで「維持管理業者」29.1%である



コンビニ等のトイレへの期待

Q14. 公衆・公園トイレの一部をコンビニ等のトイレが担うことをどう考えますか？ (SA)

・「期待している」は41.9%、「期待していない」は21.0%、「わからない」は37.1%である



n=649

コンビニ等のトイレへの期待

Q15. Q14で回答した理由を教えてください。(FA)

- ・「期待している」を選んだ理由としては「利便性向上への期待」「防犯・衛生面の評価」「行政コストの削減」等に、「期待していない」を選んだ理由としては「公共と民間の役割の違い」「民間の負担増への懸念」等に分類される。「わからない」を選んだ理由としては、コンビニが近隣にないという立地条件を上げる回答等があった。

■「期待している」主な意見

利便性向上への期待

- ・外出時のトイレの不安を解消できる
- ・利便性向上につながる

防犯・衛生面の評価

- ・防犯性や清潔性が高い
- ・常に人がいるため防犯になる

行政コストの削減

- ・設置数を削減できる
- ・維持管理費の削減になる

■「期待していない」主な意見

公共と民間の役割の違い

- ・公衆トイレの整備・維持は行政サービスであり行政が主体となるべき
- ・民間企業であるため不確実

民間の負担増への懸念

- ・民間企業の負担になる
- ・コンビニの意向が不明のため

制度・仕組みの必要性

- ・事業者との協定が必要
- ・補助制度が必要

■「わからない」主な意見

立地条件

- ・近隣にコンビニがない
- ・市町村内にコンビニが少ない

民間の負担増への懸念

- ・事業者の負担につながる懸念

公共と民間の役割の違い

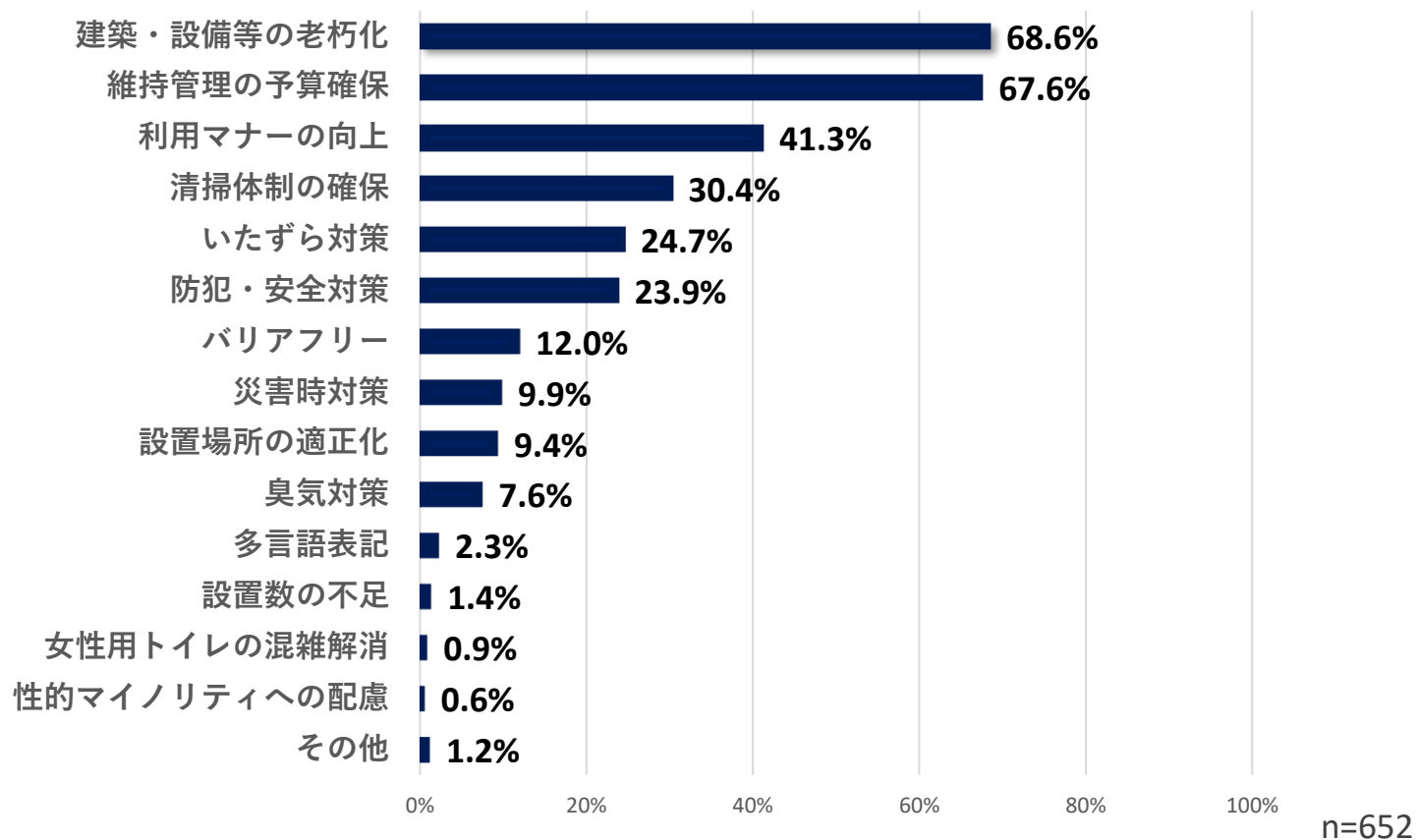
- ・民間企業に期待している事項が不明

n=438

公衆・公園トイレの課題

Q16. 公衆・公園トイレの課題として、重視するものを3つまで教えてください。（MA）

- ・「建築・設備等の老朽化」68.6%、「維持管理の予算確保」67.6%、「利用マナーの向上」41.3%、「清掃体制の確保」30.4%である。



まとめ

公衆・公園トイレ全体の課題として重視するものについて「建築・設備等の老朽化」（68.6%）、維持管理の予算確保（67.6%）が上位を占めており、さらに清掃体制の確保（30.4%）など、担い手不足の問題も浮上している。施設更新と日常管理の双方において財政的・人的制約が大きな課題であることを示している。

利用ニーズに対して設置数が適正かという設問に対して「わからない」という回答が一定数あることに加え、公衆トイレの配置基準を持たない自治体が89.5%に上るなど、多くの自治体において適正配置の判断基準が確立されていないことが課題と考えられる。

バリアフリートイレについては、利用ニーズに対して設置数が「不足している」という回答は22.9%であり、公衆トイレの4.5%と比べて多く、利用ニーズが満たされていない地域があると考えられる。また適正であるかが「わからない」も37.7%となっている。

防犯対策は59.6%が未実施であることなど、安全面でも改善が求められる。さらに、災害時の維持管理体制については約半数が未決定であり、決定している場合、その担い手で最も多いのは「行政担当者」であった。しかし、災害時に行政担当者が迅速に管理を担うことは困難である。過去の災害では、使えなくなった公衆・公園トイレに排泄して不衛生な状況になった事例もあり、実効性のある維持管理体制を平時に検討しておくことが必要である。

コンビニ等の民間トイレの活用については41.9%が期待を示しており、行政単独ではなく、民間との連携によるトイレ運用への可能性も示唆された。ただし、民間と自治体との役割分担や、補助制度などを検討することも必要である。

公衆・公園トイレを誰もが安心して外出できるまちづくりの基盤として捉え、利用実態に基づく適正配置と老朽化対策の推進、さらには災害時の管理を含めた運用体制の整備を進めていくことが求められる。